令和3年度第2回広島市公民館運営審議会 会議要旨

日時	令和4年3月2日(水) 午前10時00分～11時30分		
場所	広島市役所 本庁舎14階 第7会議室		
公開・非公開の別	公開	傍聴人	0人
出席者	<p>委員 : 新川恵美、福原剛、上谷信夫、神出恭子、高田登代子、田頭一徳、岩元佳子、大坪眞理子、久井英輔、山川肖美、脇谷孔一</p> <p>事務局 : 橋場市民局次長、田淵生涯学習課長、平田課長補佐、高木主査、大頭主事</p> <p>地域起こし推進課公民館担当課長 (区調整公民館長) : 新山課長 (中区)、河本課長 (東区)、平野課長 (南区)、大嶋課長 (西区)、中村課長 (安佐南区)、金子課長 (安佐北区)、勢良課長 (安芸区)、富永課長 (佐伯区)</p> <p>(公財)広島市文化財団 : 岩田次長、(古市公民館)高羅社会教育主事</p>		
資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度第2回広島市公民館運営審議会次第 ・ 資料1 広島市公民館の取組について (事例紹介) ネットワーク事業「うちの身近なSDGs～フィリピンの子どもたちに服を届けよう!～」について (古市公民館) ・ 資料2 コロナ禍における公民館活動及び運営について ・ 資料3 令和4年度生涯学習・社会教育関連予算案 ・ 参考資料1 広島市公民館学習会の実施方針 (体系) ・ 参考資料2 広島市温品公民館及び高陽公民館の優良公民館文部科学大臣表彰の受賞について ・ 参考資料3 令和3年度公民館利用者アンケートの結果 ・ 参考資料4 広島市公民館条例の一部改正について ・ 参考資料5 広島市公民館運営審議会関係法令等 (抜粋) ・ 参考資料6 広島市公民館運営審議会委員名簿 		

議事 (会議要旨)

1 開会

2 議事

(1) 広島市公民館の取組について

ア 第74回 (令和3年度) 優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰) 受賞について

〈説明〉

参考資料2について説明 (田淵生涯学習課長)

イ 地域資源に関する学習などを通じた取組について

【事例発表】安佐南区内公民館 ネットワーク事業 (古市公民館)

「うちの身近なSDGs～フィリピンの子どもたちに服を届けよう!～」について

パワーポイントを使って事例発表 (古市公民館 高羅社会教育主事)

〈質疑等〉

久井委員

留学生がSDGsについて学位論文を書いていて、こういう事業にどのような人がどういう要因で参加できるようになるかを研究していたので関連して伺いたい。一点目は、参加者の青少年である中学生、高校生、大学生は、どのようなつながりで参加したのか、二点目は、地域に開かれたSDGsとあるが、地域住民に啓発する際、子供だけでなく地域住民が取り組んだりする際、どのようなアイデアがあるかを伺いたい。職員研修の実施の内容が書いてあったが、重要だと思う。留学生もSDGs、ESDを正面切って掲げなくてよいが、それについて公民館職員がきちんと

理解することは大切だと言っていた。三点目は事前学習と職員研修を重ね合わせてやったのかを伺いたい。

高羅社会教育主事

まず一点目の、青少年がどうやって集まってきたかについて、チラシを公民館エリア内の各中学校、高校に配布した。もちろんホームページ、フェイスブック、ツイッターにも掲示して募集した。大学の先生がどこかで事業を察知し、学生へ行ってきなさいといったケースもある。また、公民館に出入りしてるボランティアの学生が事業に気付いて参加したというケースもある。

二点目の、どう広げていくかのアイデアについて、「FEST-HIROSHIMA」と一緒に考えていきたいと考えている。来年度も何かしたいと思っている。衣類が余っているので同様に衣類回収をするのではなく、「FEST-HIROSHIMA」の思いとしては地域防災に関連して何かできないかを考えている。公民館は地域防災に関わっている方と接点があるので、上手く学生をつないで若者が地域防災を考えるきっかけをつくり、橋渡しをすることが公民館として重要な役割と考える。

三点目については、この事業が始まる前に職員研修を実施し、SDGsについて勉強する機会を設けた。

久井委員

事業と事前学習は別でということですね。いろんな社会教育施設の方が、もう少し若者が来てくれればと言っている。他方で地域にもよるが、大学（東京の私立大学）の方だと学生に体験型学習を提供しようとしている。今はコロナ禍で大変だが、大学と施設がネットワークをつくるのは大切だと、お話を聞いて改めて思った。

神出委員

私は大河公民館で運営委員をしている。近くには皆実高校、工業高校があるが、なかなかつながりが薄く、地域には特に高齢者が多い。地域で考えたい場合、年配の方にSDGsが何なのか、意味から伝えていかないといけないと思う。若者はネットである程度分かっている。地域の高齢者にSDGsをどう伝えていくかが課題だと思うが、どのような施策をもっているか、どれくらいの期間がかかるか、諸費用などを伺いたい。

山川委員長

高齢者との情報共有という点で考えがあればお聞かせいただきたい。

中村安佐南区地域起こし推進課公民館担当課長（古市公民館長）

今回の事業については、まずは大学生の思いを受け止める、どうやったら一緒にできるのか、から取り組んだ。地域の高齢者の方へどう伝えていくかという点について、公民館利用者の7割は高齢者で、ストレートにSDGsを面出しするのも大切だが、SDGsの17の目標がどのようにつながるか、間接的に伝えることも必要だと考えている。今回はまず、成果をホームページ、公民館だよりに掲載し、地域に返し、それから次の展開を地域のニーズを踏まえながら考えていきたい。

山川委員長

地域に還元することも大切だが、大学生等若者が地域でやってみたいと思うことを公民館は応援できるということがもう少し広くPRできると良いと思う。公民館が作った機会に参加しなければならないというのではなく、地域内外の若者とも一緒に作っていく、応援するという関わり方・見せ方も、公民館として進めてもらえればと思う。以前紹介した岡山市の若者応援プロジェクトは、何かやりたいことがあれば公民館に言ってきてください、公民館が応援します、というもので、プロジェクトとして掲げてやっている。

また、今回の取り組みは、成果だけでなく、協働を拓けているプロセスもとても良かったと思う。

脇谷委員

この事業は良い形で運用されている、良いステップが踏まれていると思った。参加者の感想の中で、自分ごととして捉える、自分にできることをしていきたい、と次につながるものが成果として得られ良いことだと思う。SDGsのS、持続可能という点で今後どのようにつながるのか、今後の継続性、発展性についてお聞きしたい。また、一つのモデルとして、ネットワークの協力体制が他の区にどのように波及するのか、波及できそうなのかを教えていただきたい。

高羅社会教育主事

どう継続していくかについて、古着の回収については古着がまだ余っているので、夏までに何回かに分けて送る予定としている。「FEST-HIROSHIMA」については、これまでも現地フィリピンへ行って、現地の防災という面で、スラム街で火事が起こりやすいため消火器を送る活動を継続して行っている。公民館が継続的に支援するということはできないと考えており、継続的な支援は団体が得意とするところで、団体自らがやりたいと思っている。公民館は間接的に継続していくことの手助け、継続を目指す若者を育てることを目指したい。これからの若者を支援していく形で継続して関わりたいと考えている。

ネットワークという仕組みを他の区へ広げていくことについて、大学生は安佐南区だけに住んでいるわけではないので、同じ内容の取組は他の区へ広げていくことはできたのではないかと、反省している。ただ、事業を手探りでやっていたこともあり、果たして他の区でできたのかについては疑問の残るところである。今回の古着を集める取組にあたっては、区内に取組の下地があった。その取組は、「どうぞのいす」という取組であり、ある人が不要になった物を必要な人に持って帰ってもらうというものであった。区内にこの取組の下地があったので、今回の事業は安佐南区区内では浸透するのでは、と狙っていたところだった。

現地での受け入れは大規模な組織ではなく、少人数の組織なので、どう継続してできるか、できるのであれば現地で他の活動をしたいということもあり、引き続き、市内へ広げるにはどうしたらよいかは考えるところである。

募集については今回、段原中学校、鈴峯高校、安佐中学校からも広く参加されているので、もっと広げていけたら良いと思う。

脇谷委員

「FEST-HIROSHIMA」で衣類回収は続ける、公民館は継続して若者を支援していくというのは良い方向性だと思う。他の区への波及については、手法としてネットワークのやり方が参考となるのではないかと、地域の巻き込みという点でも、学生や若い人達を拾い上げるやり方が広がっていけ

ば良いと思っている。

上谷副委員長

可部で4～5年前に災害が起きて、社協を通じていろんな物資がきた。災害時に集まった物と今回SDGsで集まった物は意味合いが違うと思うが、どちらも支援に近いが意図が違うと思う。そのあたりはいかがか。

高羅社会教育主事

やみくもに送るのではなく、こういった物を送りましょうと、現地と「FEST-HIROSHIMA」が話し合い、現地が必要な物を送付するようにしている。Tシャツ、サンダルといったリクエストのあったものを送るようになってきている。とりあえず早く送るという災害時のような緊急な場合とは違い、現地のリクエストを汲んで送付している。

上谷副委員長

災害時はいろんな物が集まって不要な物が山積みになった。前もってリクエストによって、必要な物が確実にあがってくると思う。リクエストは良いことだと思う。

高羅社会教育主事

送る際も一度に送ると現地在り捌ききれないので3回に分けて送るように計画している。どれだけの期間にどれだけ配れるのかを打ち合わせをし、現地の受入能力に合わせて送付する。

山川委員長

学校の方でもSDGsについて取り組まれていると思うのでお聞かせいただきたい。

福原委員

事業が若者中心ということだったので小学生を巻き込んでほしいなあと思って聞いていた。SDGsと大上段に構えることなく、世界には、コロナもあるが、平和、環境、貧困、差別、いじめ、少子化といった様々な問題がある。そうした問題に子供達も関心を持つ、問題を問題として自覚していくのが出発点と考える。小学生が若者と一緒に活動する中でこういう問題があるんだと気付けば、将来、若者と一緒に活動するメンバーになっていくと思う。SDGsという観点をもっと広げていくためにも、子供からお年寄りまで幅広く事業展開していくのも必要かと感じた。

山川委員長

学校との連携という点ではいかがか。

高羅社会教育主事

小学生は校区外に移動できないこともあり、今回のこの事業は小学生には声をかけなかった。それぞれの公民館で行う事業については小学校に声をかけさせていただくので、その際にはよろしくお願ひしたい。

山川委員長

学校の授業や行事として連携を図る際、先生と密なコミュニケーション図りながら進めていかなければならないので、目標と内容に協議・共有をしていただければと思う。

岩元委員

職員が学ばれて、大学生の社会教育を後押しし、地域の方にもSDGsを伝えていくという学びが広がっていくところに公民館がハブになっている取組だと感じた。DX化とあるが、今回の事業では、職員が大学生から学ぶこともあったのではないかと思う。事務のDX化について、効率的な運営がもっと広がってほしいと思う。Zoomのアカウントなど共有で使えるものがあつたら、オンラインの取組が発展的にできるだろうし、Googleフォームを使用してアンケート集計をすると効率的になると思う。

山川委員長

Wi-Fi環境やZoomの導入状況について説明いただきたい。

田渕生涯学習課長

Wi-Fi環境は各公民館ある。

新山中区地域起こし推進課公民館担当課長（中央公民館長）

Zoomのアカウントは3、4館が持っている。それぞれ共有しながら使用している。市内全公民館でZoomができる状態にはなっている。

岩元委員

導入するためのハードルはあるか。Googleフォームを使用するのは大丈夫か。

新山中区地域起こし推進課公民館担当課長（中央公民館長）

導入には予算が必要となる。Googleフォームを使用するのは大丈夫だが、Zoomによってアンケート調査をしておりZoomでできる。

山川委員長

職員の研修もオンラインとなり、またオンライン事業の実施が進んでいるので予算面も考えていただければと思う。

大坪委員

古市公民館の取組に感銘を受けた。善意の押し付けではない活動、自己満足ではいけないと感じた。Zoomのこと、Wi-Fi環境が館によって違うのであれば、予算の関係もあると思うが進めていただければと思う。

山川委員長

優良公民館表彰についてであるが、今回、受賞した事業は、いずれも、社会課題として喫緊かつ多くの地域で共通するののもであり、方法面としては連携・協働という面で拡がりのある素晴らしい事業である。温品公民館がコーディネートをされて地域の多様な人や資源を繋いでいる防災

への取り組みについては以前に本審議会でも素晴らしい報告をしていただいた。高陽公民館の認知症カフェについても、どの地域も必要としており、福祉的な観点が素晴らしい。いつの機会か、発表をお願いしたい。

(2) コロナ禍における公民館活動及び運営について

〈説明〉

資料 2 に沿って説明（田淵生涯学習課長）

〈質疑等〉

久井委員

利用制限期間中、オンラインで実施している事業はどれくらいあるか。

新山中区地域起こし推進課公民館担当課長（中央公民館長）

中央公民館の状況となるが、毎月第一金曜日に子ども支援事業を保護者対象に行っており、コロナ禍で公民館を使用できなくなった際、オンラインに切り替え実施したのが 2 事業、今年に入ってから市内 21 館を結び美術館の学芸員を講師に招いた事業、これは YouTube でライブ配信も行い、また十数館でグループ発表のライブ配信を行った。

田淵生涯学習課長

参考に、令和 2 年度の実績（双方向型）になるが、事業数は 22 事業、延べ回数は 65 回、延べ参加者数は 2,440 人であった。

山川委員長

市としての施設利用の制限方針があつて人が集うことを極力制限しているが、一方で民間ではコンサートでも人数を制限して感染対策を徹底した上で実施している例もある。県立図書館は自粛期間中、自習ができる形で受験生等を受け入れていた。もちろん、安全、安心が第一で、市としてガイドラインを決めているのは理解しているが、令和 2 年、3 年、4 年の状況は違ってきている。少しずつノウハウが蓄積されてきている中、全部が一斉に同じやり方で制限するのではなく、どうあれば安心、安全に利用ができるのかを少しずつ模索してもらえないか。具体的にまず、やり易いことのひとつが学習室（図書室）の利用かと思う。昨今、受験生が行き場がなく、反って別のところで密になる状況もある。市としての方針があるのは承知しているが、実態をみながら検討いただけないかと思っている。

橋場次長

緊急事態宣言やまん延防止措置が出ると、まず県が基本的対処方針を決め、それに基づいて広島市でどうするかを決める。市民局で言うと公民館だけでなく区民文化センター、図書館などの施設があり、市民局以外で言えばサンブラザなどの様々な施設がある。広島市の危機管理課が中心となって施設を所管している市民局等の意見を聞きながら、前回のまん延防止措置が出された時はこうしたからこうすると、今は比較的、前例踏襲のような形で方針を決めている。図書館の自習室について、県が途中で開けたときも、市ではいろいろと協議して市としては自習室を開けないという方針を出した。施設を閉めると市民の方に大変ご迷惑をかけることは理解している。一方でコロナの拡大は押さええないといけない。両方間で市長以下、対処方針を決定する際、悩んで

いる。現在、ワクチン接種が進み、飲み薬も開発されている。今後の状況次第にはなるが、前例踏襲ではなく施設をどうしていくのかを、いただいた意見を参考にしながら今後の対応を考えていきたい。

山川委員長

前例踏襲でなく、しっかり議論をしていただいているとお聞きし、心強く思っている。

(3) その他

ア 令和4年度生涯学習・社会教育関連予算案

〈説明〉

資料3に沿って説明（田渕生涯学習課長）

イ 広島市公民館条例の一部改正について

〈説明〉

参考資料4に沿って説明（田渕生涯学習課長）

ウ その他

全国インターネット活用コンクール銀賞受賞について

〈説明〉

資料に沿って説明（新山中区地域起こし推進課公民館担当課長）

〈質疑等〉

脇谷委員

資料3の予算案の中で、施設整備については年度によって増減があるかと思うが、施設管理運営が2億円以上増えている。人件費が大きいと思うが、今後についてお聞かせいただきたい。

田渕生涯学習課長

施設の管理運営については指定管理料として支払っている経費で、人件費が大きい部分を占めている。指定管理料を積算するにあたって3%のアップを見込んで積算しているのでかなりの額が増えている。あくまでも見込みであり実際に上がるかどうかは今後のこととなる。

3 閉会

山川委員長

長時間になったが、熱心にご議論いただいた。これをもって本日の会議を閉会する。